



100年先もナガノで暮らす! 社会課題と市民活動の記録

# Nagacle Journal

ナガクルジャーナル 2020.4.1～2021.3.31

ナガクルジャーナルは赤い羽根共同募金  
の配分金で発行されています



## ナガクル特設コーナー“災害支援”

### 台風19号災害時にネットワークがもたらしたもの

2021.02.15 掲載 執筆:ソーシャルライター 吉田 百助



令和元年東日本台風（台風19号）の経験を振り返る「災害時の連携を考える長野フォーラム」が、2021年1月29日に開かれた。長野市内からオンラインで配信し、全国で約300人が視聴した。主催は、長野県災害時支援ネットワーク（以下、通称の「Nネット」と表記）、事務局を特定非営利活動法人長野県NPOセンターが務めている。

Nネットは、災害時に行政・社会福祉協議会・NPO等の三者連携をスムーズにすすめるための役割を果たし、被災者支援・被災地支援の活動を支援することを目的に、平時の学習や交

流も含めた活動を行っている。「災害時の連携を考える長野フォーラム」は、18年1月29日の第1回、19年3月21日の第2回に続く3回目で、台風19号被災後は初めて。復旧・復興に向けた各団体による支援活動とNネットとの関わりを振り返るために企画した。

前半は「災害支援ネットワークとの連携の視点で活動を振り返る報告」を、後半は「災害の最前線での連携や全体を俯瞰しての報告」を、それぞれ5名ずつがリレートークした。全体を通して共有したのは、「あって良かったNネット」との思い。ネットワークの必要性と協働の力、平時か

らの顔の見える関係づくりの大切さを考える機会になった。印象的だった5つの言葉を紹介し、その背景を考えてみる。

#### 1.「困った時に『あの人』の顔が浮かんだ」

当てがなければ途方に暮れるだけ。ネット検索で答えを探せるだろうか。時間ばかりが過ぎ、プレッシャーはより重く、ストレスがどんどん溜まっていくのに問題は解決しない…。そんな思いをすることなく、「あって良かった」と実感したNネット。「顔を知っている」、「話したことがある」〔…続きを読むはウェブサイトで↑QRコードから〕

ナガクルジャーナル 2020.4.1~2021.3.31

# Social Matters

目の前の社会課題にソーシャルライターが挑む。そして我々市民に問うナガクルの原点とも言えるコーナー。

## 山村留学は長野県が発祥 長野市大岡で廃止の危機に!?



山村留学は、昭和51年、教員や保護者、教育関係者により長野県八坂村(現在大町市八坂)で任意団体(現 公益財団法人育てる会)を発足、初めて実践活動をシステム化して教育に取り入れた。その後、山村留学は全国に広まり、これまで小中学生約12,000人が参加し体験してきた。「山村留学とは、都市部の子どもたちが自然豊かな農山村地域の共同宿泊施設や農家などで暮らし、地元の学校に通いながら、自然体験や生活体験をする取組」としており、自然という県財を有効に活用した教育県として

[…続きを読むウェブサイトで→]



2020.5.30掲載 執筆:ナガクル編集デスク 寺澤 順子

## 新しい家族の未来へ 選択的夫婦別姓制度への期待



テレビアニメ「サザエさん」は、1969年に放送が開始されて以来、51年続く長寿番組で、日本人なら全国どこでも、子どものころ、誰もが慣れ親しんだアニメであろう。

いま、視聴者はサザエさん一家を違和感なく受け入れているのだろうか?

サザエさん一家は「磯野」姓と「フグ田」姓が同居する3世代家族であるが、今改めて見てみると、その家族構成とそれぞれのキャラクターが、絶妙なバランスを保ち、時代を物語っているように思える。

[…続きを読むウェブサイトで→]



2020.12.18掲載 執筆:ソーシャルライター 村上 裕紀子

## 商店街復活のカギは 「本」を通じたコミュニティ



かつては町の中心として繁栄していた商店街。それが今は空き店舗が増え衰退の道を進んでいるかのように見える。

私たちの生活スタイルの変化に伴い、特に駅前の商店街など利用者は郊外へ流れてしまうのは時代の流れとして仕方がない部分である。さらにはコロナ禍でリアルでの販売が厳しさを増した昨今。果たしてこのまま衰退の一途を辿ってしまうのだろうか。長野県内の現状踏まえ、商店街復活の鍵を探ってみたい。

[…続きを読むウェブサイトで→]



2021.3.23掲載 執筆:ソーシャルライター 田中 一樹

## 子ども食堂を通し 食の大切さ楽しさを考える



つい最近、喉の疾患で、ものがまともに食べられない日が続きました。そんな中、ものを食べたり飲んだりすることの難しさ・大切さを改めて思いました。食べなければ、確実に体重は減り体力は落ちて気力もなくなるということを、体験したのです。今はもと通りに食べられるようになって、食べる喜び、楽しさを味わっています。

以前、安曇野市で、3年程「おなかまキッチン」という子ども食堂のボランティアスタッフをしたことあります。子ども食堂について書くと、書き切れないものがあります。

[…続きを読むウェブサイトで→]



2021.3.25掲載 執筆:ソーシャルライター 中村 健

## コロナ禍で増える 子どもの自殺



昨年から、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界で大流行し始めました。日本国内では2020年1月15日、長野県内ではその約1ヶ月後に最初の感染者を確認。2021年3月28日現在、陽性者(患者等)は2711例目まで確認されています。未だ収束せず、感染予防のための生活様式の変化、仕事や学業への影響で、大人はもちろん子どもにかかるストレスは大変大きくなっています。日本全国では年々、自殺死亡率がゆるやかに下がってきていましたが、2020年の自殺者数が11年ぶりに増加。

[…続きを読むウェブサイトで→]



2021.3.29掲載 執筆:ソーシャルライター 松井 明子

## 便利さに忘れられた先人の教え —コロナ禍で



1960年代から1970年代の高度経済成長期に「三種の神器」と呼ばれた家庭用電化製品(家庭電製品)があった。いまでは当たり前に各家庭にあるテレビ(当時は白黒)・洗濯機・冷蔵庫である。「白物家電(しろもののかでん)」とも呼ばれた便利な家電製品は、炊飯器(電気釜)や掃除機、電子レンジなどが加わって、瞬く間に普及していった。

これら便利な家電製品は、家事や調理など家庭内の労力を減らし、女性の社会進出を促すことになった。

[…続きを読むウェブサイトで→]



2021.3.15掲載 執筆:ソーシャルライター 吉田 百助



# Special Topics

長野県内のSDGsに関する情報や動き、災害支援に関わる団体の活動を紹介します。

## 高大生がSDGs地方創生カートゲームに挑戦

2020.07.25掲載 執筆:ナガクルデスク 寺澤 順子



のための2020アクションプラン企画会議を行いました。午前中は、24人が参加し、SDGs地方創生カードゲームにトライしました。

冒頭で講師の小林達矢さん(長野県NPOセンター事務局次長)は、SDGsのゴールのうち、「日本は世界的にジェンダーの達成度が低いこと、また作る責任と使う責任の意識の低さ、さらにはパートナーシップを組むことも苦手」と話しました。

また、クイズ形式で、世界の平均寿命は70才であること、[…続きを読むウェブサイトで→]



ユースリーチ(長野県NPOセンター主催)は、長野県内の高校生や大学生が、学校の枠を超えて仲間作りをし、地域の大人と協力し、元気な長野を作ろうと実践活動をする事業です。昨年度より国連の持続可能な開発目標SDGsを達成しようと、アクションを起こしています。

7月19日に長野市生涯学習センターで、ユースリーチはSDGs達成

## 台風19号被災みそ蔵復活の第一歩に協力を!

2020.09.28掲載 執筆:ナガクルデスク寺澤 順子



室・コラボの理事長飯島美香さんの呼びかけで立ち上りました。同法人は3年にわたり長野県味噌工業協同組合連合会、ながの協働ねっと、などと協働で「善光寺みそフェスタ」を開催してきました。

その仲間である小川醸造場(長野市長沼津野)が昨年10月13日、千曲川の決壊現場すぐ横に位置していたため、みそ蔵、製造設備、原料、製造中のみそ、在庫まで、跡形もなく流されてしまいました。自宅も住める状態ではなくなってしまったのです。

[…続きを読むウェブサイトで→]



キセキのみそ復活プロジェクトは、クラウドファンディングReady-for「台風19号被災のみそ蔵復活の第一歩に協力を!」をスタートしました!! 11月30日までに130万円を集めます。令和元年台風19号の被災から1年。地域のみそ屋さんの復活の第一歩として、原料の大豆を育てる活動を行っています。キセキのみそ復活プロジェクトは今年3月に、NPO法人食育体験教

## 高校生が考えたイベント「清走中」

2021.03.14掲載 執筆:ソーシャルライター 松井 明子



2021年3月9日、長野市の中心部にある長野市立鍋屋田小学校で、「清走中～Run for trash～長野市街地編!」というゴミ拾いイベントが開かれました。

フジテレビで不定期に放送されている「逃走中」という番組があります。ゲーム参加者(逃走者)が限られたエリアのなかでハンターから逃げつつ、さまざまなミッションをクリアしていく番組です。

この「逃走中」と「ゴミ拾い」を合体させ、ゲーム感覚でゴミ拾いをするイベントが「清走中」です。  
[…続きを読むウェブサイトで→]



## 佐久市で災害への備えワークショップ

2020.10.6掲載 執筆:ソーシャルライター 粟津 知佳子



顔がみえる関係性を一佐久で災害への備えワークショップ

2019年10月12日、千曲川流域に大きな被害をもたらした令和元年台風19号からまもなく1年。被災状況を振り返り、次の災害への備えを話し合うワークショップが9月26日、佐久市で開催された。

主催は佐久市市民活動サポートセンター(通称さくさぽ)、共催は長野県災害時支援ネットワーク。



## ナガクル登録団体

- ◆ 非営利ボランティア団体 **天空の里 いもい農場** 長野市
- ◆ 社会福祉法人 **恵仁福祉協会アザレアンさなだ** 上田市
- ◆ 特例認定NPO法人 **介護屋つむぎ** 木曽町
- ◆ NPO法人 **Happy Spot Club** 千曲市
- ◆ NPO法人 **ホットラインながの** 長野市
- ◆ NPO法人 **リベルテ** 上田市
- ◆ **ながの電気クラブ** 長野市
- ◆ NPO法人 **こすもけあくらぶ** 長野市
- ◆ NPO法人 **霧ヶ峰基金** 諏訪町

- ◆ NPO法人 **有機農業参入促進協議会** 千代田区
- ◆ NPO法人 **長野県NPOセンター** 長野市
- ◆ 認定NPO法人 **長野犯罪被害者支援センター** 長野市
- ◆ NPO法人 **夢空間松代のまちと心を育てる会** 長野市
- ◆ NPO法人 **ユニバーサルツーリズムながの** 安曇野市
- ◆ NPO法人 **わおん** 塩尻市
- ◆ 認定NPO法人 **長野サマライズ・センター** 塩尻市
- ◆ **ながの災害・防災ネットワークみらい** 長野市
- ◆ NPO法人 **善光寺街道歩き旅推進局** 麻績村
- ◆ NPO法人 **日本フロアホッケー連盟** 長野市
- ◆ NPO法人 **信州まちづくり研究会** 立科町
- ◆ NPO法人 **侍学園スクオーラ・今人** 上田市

- ◆ NPO法人 **ふうえば** 長野市
- ◆ NPO法人 **飯綱高原よっこらしょ** 長野市
- ◆ NPO法人 **食育体験教室・コラボ** 長野市
- ◆ **長野ホタルの会** 須坂市
- ◆ NPO法人 **NINJA Project** 長野市
- ◆ 株式会社 **ウェブシェア** 長野市
- ◆ **翠翔会** 長野市
- ◆ NPO法人 **信州フォレストワーク** 長野市
- ◆ 特例認定NPO法人 **ヒューマンネットながの** 長野市
- ◆ NPO法人 **くらりnet** 飯田市

団体の詳細はこちらから⇒





# Relay Column

ナガノの地域課題に取り組む市民活動家のみなさんから、現場の声をお届けしています。



## コロナに負けるな! 動画で応援

中澤 聖子さん

NPO法人エリアネット更埴理事長  
2020.06.10掲載

「コロナC O V I D—19に負けるな! みんなの街まち応援サイト」を5月15日グランドオープンしました!

エリアネット更埴では、6年前から市民活動交流センターの事業に取り組み、定款に掲げる目的を「地域情報化の推進」から「地域住民の交流や連携を図り市民主体の住みよいまちづくりの推進」へと転換してきました。



まさに、人との交流に関する事業を柱とし、さらにこの2020年度には、新たな事業も計画していた矢先、今までの活動もこれからの活動もすべて否定されるような、新型コロナウイルスという、予想もしなかった事態が起きてしまいました。地域の団体や市民の皆さんとの信頼関係がやっと花を咲かせ始めていたのに。

多くの市民団体の活動やイベントが中止になりました。しかし、それはただイベントができないということではなく、団体の活動の目的が消失してしまい、関わっていた人たちが無気力感にも襲われてしまうのです。そんな声を周りからたくさん聞きました。そんなとき、なんとかできないかと、考えに考えたのが「みんなの街まち応援サイト」の[…続きを読むはウェブサイトで→]

長野市民新聞「NPOリレーコラム」  
2020年5月16日掲載



## 子どもたちの生きる希望とは

小林 啓子さん

長野の子ども白書編集委員会事務局  
2020.8.06掲載

2012年の創刊から9号目にあたる今号は、県内の92人の執筆者・取材協力者を得て、5月27日に発行しました。

「子ども白書」というと、行政が出しているあのグラフや統計資料満載の事業報告書かな…と思われるかもしれません、長野の子ども白書は、民間の有志が子ども・若者本人の声や意見を集め、傍らで伴走する保護者・支援者率の高さに顕れる「子どもの生きづらさ」は、大きな課題です。



子どもの声を聴き、体験者・保護者の報告に学び、その背景にあるものに迫ろうと模索してきました。それらはみな「このままではいけない」という警鐘を打ち鳴らすものでした。

長野の子ども白書が独自に実施している「学校・家庭・自分」についての小中学生アンケート(県下約4千人の小中学生が回答)では、新しい設問「生きているのがつらいと思ったことがある」に、小学校4年生は25%が「とてもあてはまる・どちらか」というとあてはまる」と回答しました。子どもが生きる希望をもてなくなる……というのはどういうことなのでしょうか。

[…続きを読むはウェブサイトで→]

長野市民新聞「NPOリレーコラム」  
2020年6月20日掲載



## 復興へ語ろう! つながろう!

阿部 今日子さん

長野市市民協働サポートセンターセンター長  
2020.8.12掲載

昨年10月13日の台風19号による水害後、多くの市民団体が支援活動をしてきました。もともと災害支援をしていた団体だけでなく、新たに生まれた団体、また、企業も含め普段の活動をベースに復興に向けて動き出した団体などさまざまです。

市民協働サポートセンターも災害支援に関わる中で、今後の復興に向けて、また再び長野市が被災した時のことを考え、それらの団体がゆるくつながる場が必要ではないかと考えました。長野市内で災害支援を長く続けている「長野市災害ボランティア委員会」と一緒に交流会を企画。



7月5日、長野市ふれあい福祉センターで市内支援団体のネットワークづくりの一歩として交流会を開催しました。

50人定員の予定でしたが、当日集まったのは関係者も併せて94人と大所帯。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな規制をしつつの運営となりました。前半はリレートーク。長野市・市社会福祉協議会・参加団体から2人が代表して、活動の現状と今後について共有しました。

[…続きを読むはウェブサイトで→]

長野市民新聞「NPOリレーコラム」  
2020年7月18日掲載



## 取材先や執筆者を探しています。

ナガクル編集室では、研修を受けたソーシャルライターが、NPOの現場にお邪魔して取材、紹介をさせていただきます。非営利が目的の団体での活動に限らせていただきます。またNPOの理事や代表者で、自身でコラムを書いてみたい! 方も募集中です。左下QRよりサイトフォームでご連絡ください。



## ナガクルになりませんか?

ソーシャルライターを応募しています。有料個別オンライン講座もあります。お問い合わせを。

Come and join us!



## ナガクルに団体登録しませんか?

長野県内で市民活動や、社会貢献活動をしている団体(企業も可)なら、法人格の有無に関わらず登録可能です。日本財団のCANPANへの登録が前提となります。登録されると貴団体が日頃発信されているブログがナガクルのトップページに自動掲載されます。



ナガクル 編集室

NPO 法人長野県 NPO センター内 (月一金 10:00 - 17:00)  
Tel 026-269-0015 Fax 026-269-0016  
E-mail : nagacle@npo-nagano.org